

提供日 2025/2/21(金)

タイトル 生後3ヶ月の乳児のカテーテルアブレーション治療について

担当 こども病院会計課企画・管財係 野中

連絡先 こども病院会計課企画・管財係 野中

TEL 054-247-6251(代表)



～ともにつくる 信頼と安心の医療～

生後3ヶ月乳児のカテーテルアブレーション治療について

(要旨)

静岡県立こども病院は、体重10kg以下の難治性発作性上室頻拍（非通常型房室結節リエントリー性頻拍）の患者を受け入れ、カテーテルアブレーション治療に成功しました。

1. 患者等

- ・患者 生後3ヶ月（宮城県在住）、1,500g以下で出生
- ・疾患 発作性上室頻拍：非通常型房室結節リエントリー性頻拍※
※発生頻度が低い稀な病型

2. 受入の経緯

- ・通常、新生児の発作性上室頻拍は薬物でコントロールし、1歳前後で自然軽快することが多い。患者は胎児期から頻拍発作があり、1,500g以下で緊急帝王切開。生後2日目から頻拍発作があり、あらゆる抗不整脈薬を使っても、1日に5～10回の頻拍発作と不整脈は心拍数200回/分を超え、放置すると重症心不全から致命的となるものであった。
- ・12月上旬、宮城県立こども病院から当院不整脈内科長芳本医師（以下、芳本医師）に相談があった。心電図所見から発作性上室頻拍と診断され、薬物治療についての助言を行ったが、毎日頻拍発作が出現する状態が続いた。
- ・薬物治療では頻拍発作が停止しないため、1月20日に芳本医師がオンラインで、宮城県立こども病院の医師、親にアブレーション治療について説明し、当院でカテーテルアブレーションを行うこととなった。
- ・移動中に頻拍発作が起こる可能性が考えられ、宮城県立こども病院からの転院は、移動時間短縮と搬送中の治療が必要となることから、ドクタージェットでの搬送とした。

- ・ 小児に行うカテーテルアブレーションは、15 kg以上では比較的安全に行うことが出来るようになったが、15 kg以下では合併症の発症率が高い。芳本医師は、これまでに16例、最小体重3.4 kgの実績を重ねており、総合的に検討し治療可能と選択した。

3. 治療の経過

- 1月27日 宮城県立こども病院から静岡県立こども病院へ空路搬送
- 1月28日 経皮的カテーテル心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）施行
- 2月3日 退院（宮城県立こども病院に転院）
- 2月5日 宮城県立こども病院退院

4. その他

（参考）

日本重症患者ジェット機搬送ネットワーク

<https://n-fukushima.jimdofree.com>

（問い合わせ先）

静岡県立こども病院 会計課 企画・管財係